

日本原子力産業会議

理事  
事務局長 森 一久 殿

LEMS 第 466 号

昭和 48 年 7 月 24 日

東京都千代田区一ツ橋1丁目2番2号  
郵便番号 100  
東京中央郵便局私書箱第1524号

 住友商・事株式会社

電話東京 (03) 217-7705  
(ダイヤルイン)

ソ連東欧室次長 伊藤 弘 

拝啓 時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、下記の書類 同封ご送付いたしますのでお受取り下さい。 敬 具

記

- 。 シェフチェンコ の原子力発電所
- 。 極北のヒリビノ原子力発電所

各 1 部

上記 添付御送付申し上げます。

以上

### ☆ シェフチェンコの原子力発電所

カスピ海東海岸のシェフチェンコ市は石油産出地だが、淡水の水源がない。ここにこんど高速中性子原子炉をもつ原子力発電所が建設され、この地方は急速に発展することになった。というのも同発電所は海水を脱塩し、電力を生産し、核燃料を再生産するという三つの機能を同時に発揮するからである。

マンギシラク半島に探査井が掘られたのは十二年前だが、ここに大石油鉱床があるという予測は確認された。いまカザフ共和国はロシア連邦につくソ連第二の産油共和国となった。専門家の計算では、この半島の年産油量は将来、八千万一億トンになる。

ところがこの地域の年間降水量はわずか百六十ミリ。真水はカスピ海のかなたからタンカーで運ぶか、海水の蒸留水を使わねばならなかった。飲料水はこれで十分であったが、淡水の不足で工業は伸びなやんでいる。

このさしせまった問題はこんど最終的に解決された。七月十六日から多目的原発が運転を開始したのである。同発電所の出力は十五万キロワット、原子炉の熱で毎日十二万トンの脱塩水を生産することができる。これは大きな川の流量にひ

とらる。

[ APN ニュース ]

出	48年7月20日付
所	APN ニュース

## ☒ 極北のビリビノ原子力発電所

ソ連最北のビリビノに建設中の原子力発電所は本年中に運転を開始する。

この発電所の建設工法は、これまでの発電所とちがう。このあいだまで設計図の段階だった発電所の建物はすでに完工し、いまは内部の最も重要な施設の工事が進められている。その工事も終りに近い。これまでは厚い壁にあげられた窓をとおしてしか見られなかった原子炉が、いま眼前にあらわれている。大きなディスクの上からやがてウラニウム燃料棒がおさめられる。いくつかのチャンネルが見える。ディスクは重い厚板、生体遮へいタンク（百四トンの水）、特殊コンクリート板でかくされる。

ソ連の原子力発電所の出力は、現行五カ年計画末までに六百万キロワットをこえる。昨年はノボホロネジ原子力発電所の第四号機が運転を始めた。レニングラード、コラ、アルメニアの各原発が目下建設中である。これらの大発電所の数十万キロワットの出力に比べると、チヤコトカのビリビノ原発の出力はそれほど大きなものではないように見えるかもしれない。しかしこの発電所にひじょうに広大な地域の電力需要を完全に満たすことができよう。

比較的小さいこの発電所の建設にソ連の技術陣は総力をあげており、ビリビノ発電所は他のどの原発よりも近代的なものとなる。そして一部の設備は他の社会主義諸国でつくられた。建設現場を訪れると、かならずこのことを聞かされる。例えば、タービンはチェコスロバキア製、ラジエーター冷却装置はハンガリー製である。

タービンから出る水の冷却サイクルは循環式となるので、水の使用量はひじょうに少なくすむ。

この新原子力発電所は、電力、熱、水の供給問題を同時に解決する。例えばここでつくられる熱の一部は、温室培にも利用されよう。

〔APN〕